

日本語および単位の使い方

マニュアル作成の基本事項として、日本語における「漢字とひらがなの使い分け」および「単位および接頭語の使い方」についてアドバイスします。

1. 漢字とひらがなの使い分け

(1) ひらがな書きの原則

現代国語表記の基準では、現代仮名遣いとして適用するのは、「ひらがな書き」が原則とされています。(内閣告示)

つまり、新聞に掲載されている漢字とひらがなの使い分けが正しいものだと考えてください。

ただし、法令条文においては、接続詞を漢字としておりますので、うまく使い分けてください。

【漢字としてはいけないもの】

〇〇の為、 → 〇〇のため、 〇〇の通りに → 〇〇のとおり

〇〇から来ている。 → 〇〇からきている。(引用先の説明する場合)

御礼する → お礼する(ただし、祝儀袋は「御礼」)

【接続詞】

又は → または 及び → および 並びに → ならびに

但し → ただし 全て → すべて 若しくは → もしくは

※ ただし、法令条文については、漢字としている。

(このため、マニュアルにおける接続詞は、いずれでも可となります。)

【逆に漢字とすべきもの】

〇〇のなか、 → 〇〇の中、 なにををする。 → 何ををする。

たてる。 → 立てる。(立案を示す場合)

【意味で使い分けるもの】

〇〇のもの ⇔ 〇〇の者 ⇔ 〇〇の物

やすい ⇔ 易い よい ⇔ 良い

【正しい漢字とすべきもの】

配布 → 配布(配布の対象は不特定多数) 充分理解する。 → 十分理解する。

遵守 → 順守(過去は「遵守」であったが現在は「順守」が正しい)

1つ → 一つ(大きな問題ではないが、基本は漢字)

2. 単位および接頭語の使い方

(1) 単位における大文字と小文字の使い分け

単位においては、「人名」を基に作られたものに限って大文字を使用することとなっている。

・大文字の例：V(ボルト)、W(ワット)、N(ニュートン)、Pa(パスカル)

・小文字の例：m(メートル)、g(グラム)、t(トン)、lx(ルクス)

(2) 接頭語(10の整数乗)における大文字と小文字の使い分け

接頭語については、基本的には小文字を使用する。ただし、「ミリ」と「メガ」については、混同を避けるため、「メガ」に限って大文字を使用する。

・大文字の例：M(メガ) = 10^6

・小文字の例：m(ミリ) = 10^{-3}

k(キロ) = 10^3

μ (マイクロ) = 10^{-6}

d(デシ) = 10^{-1}

3. その他

マニュアルでの規定事項の記述において、文章末尾の表現を適正化してください。
規格の要求事項に対し、マニュアルは自己宣言となりますが、敬語の使用は問題です。

【規格の内容】

組織は、〇〇の課題を明確にしなければならない。

【良くない例】

当社は、〇〇の課題を明確にします。

- ← 自己宣言が敬語になっている。(誰のためのマニュアルですか？
まさか、認証審査会社に対するマニュアルなの？)

【良い例】

当社は、〇〇の課題を△△によって、明確にする。